

学校防災活動拠点訓練

避難所だけでなく「情報拠点」「地域活動拠点」の機能も併せ持つ地域の防災活動拠点となる学校で防災訓練を行いました。

千鳥小学校 11月8日(土)

今回の訓練は初動訓練で震災時の校舎の状態確認（点検レクチャー）と応急給水栓の実技訓練及び矢口消防署による消火器噴霧と三角巾、担架の使用訓練を行いました。特に応急給水栓の訓練は参加者に好評でした。私は常日頃、実際に大震災や災害が起こった時に活動拠点に役員が、すぐに集まれるか1番の心配事でした。当日は矢口消防署地域防災担当係長の中島氏から実際に体験した防災拠点開設時の体験談を聴きました。従来、訓練している役員が集まらず、避難してきた人達に各部署の担当をお願いしたとのことでした。緊急時マニュアルは有るが、日頃訓練を受けた役員が仕事などで集まらない時、避難された人達と、限られた人数で臨機応変に活動拠点の運営を行なったと聴き、大変参考になりました。



訓練の様子

(矢口北町会 酒井 政則)

矢口中学校 11月22日(土)

今回の訓練目的は、会議で挙げた課題を訓練用マニュアルを活用し、改善案の実用性を検証しました。訓練後検証に基づき本マニュアルの修正を行います。

訓練を行う前に大田区の施設保全課の方から建物の外観チェックの指導を受けました。避難所として開設できるかをチェックシートに従って体育館の外部4面（東西南北）今回は1面および、内部チェックを行いました。外・内部で建物の崩壊や著しい剥がれが認められたら建物の使用中止となります。また調査内容を特別出張所に報告をします。

訓練は日中に震度5強の地震が発生。点検が済み、矢口中学校を避難所として開設することが前提で行われました。

総務部・情報班：校庭で待機中の避難者受入（受付）のため、迅速に避難所開設を行う。

施設部・物資管理部：断水のため、応急給水栓から水を引き、飲料水や生活水として使用できるように整備する。また、照明も整備する。

福祉衛生部：避難者の手当てや救護のため、応急救護やAEDの訓練を消防署の方から指導を受ける。

地域活動部：無線機交信訓練のため、被災状況の把握・支援で地域の見回りをおこなう。

訓練後各部・班に分かれて設置作業や避難者の誘導などの改善すべき点をまとめ発表を行いました。これらを基にマニュアルの修正をします。この積み重ねでより良いマニュアルが出来スムーズな対応が取れるようになると思います。



訓練の様子

矢口西小学校 11月15日(土)

矢口西小学校で、防災活動拠点訓練が行われました。震災時の避難所機能の他、情報集約・地域の防災活動拠点として地域住民が自主的に運営するものです。同小では耐震化を含めた全面的な建替工事中という制約下で実施されました。各班に分かれマニュアルに沿った手順を確認していきます。毎年繰り返されているので、マニュアルがその都度アップデートされています。特に今年は安全確認チェックシートが、東日本大震災の経験を基に仙台市が作成したフォーマットで整理され、具体的に使いやすいものになったと感じました。いざという時には慌てずに行動したいものです。

(下丸子四丁目町会 生方 直人)



訓練の様子

多摩川小学校 11月29日(土)

多摩川小学校防災活動拠点の震災訓練が、開催されました。震度7の首都直下型地震を想定した実地訓練です。

訓練では「安全確認訓練」「応急救護訓練」「投光器訓練」の3つを実施しました。

①安全確認訓練では仙台市の被災経験を参考にした新しいチェックシートを導入し、体育館の安全確認手順を体験しました。

②応急救護訓練では矢口消防署の指導のもと、心肺蘇生法やAEDの使用、担架・車椅子型搬送器具による搬送方法を習得しました。

③投光器訓練では夜間作業を想定し、発電機や投光器の組み立て・操作を体験し、複数人での協力作業の必要性を確認しました。

訓練の振り返りでは、心臓マッサージの体力的な負担や、暗闇での機材組み立ての困難さなどが課題として挙げられました。新チェックシート導入は好評でした。今後、機材操作マニュアルの作成や継続的な訓練の実施などが確認されました。



訓練の様子

自治会・町会防災訓練

秋に防災訓練などを行った自治会・町会をご紹介します。

アルス多摩川自治会 10月5日(日)

震度6の地震が発生したことを想定して訓練を行いました。防災本部を立ち上げて館内放送を行い、救護部・救護所の開設等を行いました。また、参加者を「防災備品の取り扱い訓練」「各家庭での防災備蓄の取り扱い訓練」「非常用トイレの取り扱い訓練」「消火器具による初期消火訓練」の4班に分け、訓練を行いました。矢口消防署より、訓練内容の充実さに高評価を得ました。

(アルス多摩川自治会 齋藤 民雄)



訓練の様子

東京サーハウス自治会 10月18日(土)

今年は『体験しよう！』をテーマに防災訓練を行いました。

メニューは「AED操作訓練」「煙体験ハウス」「消火器の操作訓練」「起震車体験」の4項目です。サーハウスの敷地の広さを生かしたメニューであり、更に消防車も来て、子供のみならず大人にも好評でした。「AED操作訓練」では家族で受講されている方も多く、世代を問わず関心が高かったです。

この他にも、防災に因んだ〇×クイズなど盛り沢山の訓練でした。

(東京サーハウス自治会 黒崎 栄治)



AED操作訓練

ブラウトリエ自治会 11月30日(日)

ブラウトリエ管理組合の協力を得て、以下の項目について、説明・訓練を行いました。

- ①防災組織について（災害対策本部/自衛消防団/学校防災活動拠点）
- ②災害時の行政の状況（避難所と緊急医療救護所・軽症者救護所）
- ③現状と被害想定（インフラ/設備）
- ④備蓄防災備品
- ⑤排便袋（凝固剤）の使用体験・簡易トイレ試用
- ⑥発電機稼働とLED点灯体験

最後にお土産配布（クッキー・簡易トイレ・レトルト・水）を配布しました。（ブラウトリエ自治会 諏訪 行伸）



訓練の様子

下丸子三丁目町会・四丁目町会 10月12日(日)

本年は下丸子天祖神社にて2町会合同で実施しました。

実施項目は「消火器による消火訓練」「スモークハウスでの煙体験」「AEDによる救命講習」「各種防災器具の展示」「起震車で地震体験」でした。

とりわけ煙の中では、ハンカチ等で鼻や口を覆い、低い姿勢で、壁を手で伝って逃げる手順を学びました。

5つの体験や展示見学のと参加賞として、非常食用の「災害救助用クラッカー」と「非常用簡易トイレ」（凝固剤付き排便袋）が配布されました。



スモークハウスで煙体験

古市町会 11月3日(月・祝)

嬉しいことに150名も防災訓練に参加してくれました。

まちかど訓練(投てきパック・消火器での初期消火訓練・三角巾の使い方・三角バケツなど)を各現場で行いました。また、担架・リヤカー・車椅子と共に八幡神社境内に集合し、起震車体験(震度5・震度7)、煙体験、心肺蘇生訓練(AED)、通報訓練を行いました。

最後に市民消防隊による延焼防止訓練を実施、参加者も消防ホースを持ち放水体験をしました。

矢口消防署より多摩川河川敷で携帯電話から通報すると川崎市消防局に繋がる事があるが東京消防庁と連携しているので切らずに通話を続けてほしいと説明がありました。



放水体験の様子

下丸子27号自治会 11月30日(日)

11月9日に予定していた訓練が雨のため、中止になり11月30日に延期して実施しました。

当日は天候に恵まれ、9時～10時30分の時間帯に矢口消防署下丸子出張所の協力のもと、防災訓練を行いました。27号棟の住人約70名が参加して、通報・心肺蘇生(AED)・消火の各訓練を行いました。

訓練終了後、参加者からの質問タイムを設けたところ、かなりの質問があり意識の高さを感じました。

矢口中学校防災活動拠点の担当者と共に、より一層精進していきます。（下丸子27号自治会 石井 明）



AED操作訓練